

■令和２年度 群馬県立図書館サービスに対する評価結果について

公立図書館は、その目的と社会的使命を達成するため、時代の変化や要請に対応しながら、図書館利用者に質の高いサービスを提供していくことが求められています。

このことを実現するため、群馬県立図書館では、当館が目標としている主要なサービスについて、平成２４年度から評価指標及び数値目標を設定し、その達成に向けて取り組んできました。

令和２年度の数値目標に対する取り組み結果は次のとおりです。

目 標	評 価 指 標	実 績		評 価
		(目標値)	達成率	
①読書活動の推進	図書資料貸出延べ人数	46,090 (57,200人)	80.6%	B
	新規登録者数	1,541 (1,960人)	78.6%	B
	学習支援図書貸出冊数	6,525 (5,000冊)	130.5%	A
	ビブリオバトル参加者数	48 (90人)	53.3%	C
②高度な専門的情報サービスの提供	調査相談件数	4,838 (5,000件)	96.8%	A
	調査相談事例・郷土人物データベースへの入力件数	230 (180件)	127.8%	A
③図書館ネットワークの充実強化	相互貸借冊・点数	11,908 (14,000冊・点)	85.1%	B
	横断検索システムの検案件数	264,164 (243,000件)	108.7%	A
④県内図書館等に対する支援の充実	図書館等職員研修参加人数	112 (150人)	74.7%	B
	協カレファレンス件数	72 (65件)	110.8%	A
	図書館未設置町村への貸出点数	9,541 (10,000件)	95.4%	A
⑤群馬県に関する資料・情報の網羅的収集と保存	郷土資料受入冊数	2,222 (2,200冊)	101.0%	A
	デジタルライブラリーへのアクセス件数	17,922 (14,000件)	128.0%	A
⑥情報発信の充実等	企画展示実施回数	46 (30回)	153.3%	A
	ホームページ更新件数	128 (160件)	80.0%	B
	ホームページアクセス件数	767,836 (920,000件)	83.5%	B
	メディア掲載等件数	25 (32件)	78.1%	B

○基本指標

基本指標は、図書館が恒常的に取り組む基本事項として位置づけ、「読書活動の推進」の各評価指標の参考データとして直近の実績値を活用するもので、数値目標は設定しない。

目 標	基 本 指 標	実 績(R2年度/R元年度)
読書活動の推進	入館者数	121,315／240,388(人) 50.5%
	図書資料個人貸出点数	172,921／224,818(冊) 76.9%
	貸出点数／人口1万人当たり	896／1,158(冊) 77.4%

※令和2年度の入館者数は、前年度に比べ、コロナ禍での臨時休館等の影響が出ているが、図書資料個人貸出件数は健闘している。

○評価基準

評 価	評 価 内 容	評価の目安
A	数値目標をほぼ達成し、期待する成果があった。	90%以上
B	数値目標まで達成していないが、一定の成果があった。	70%以上 90%未満
C	数値目標が達成できず、成果が不十分であった。	70%未満

①読書活動の推進（新規）

○図書資料貸出延べ人数（新規）

指標の説明	1階中央図書室及び子ども読書相談室の図書資料等を貸出した延べ人数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	57,200	46,090	80.6%	B
目標値設定の考え方	令和元年度の貸出延べ人数は64,817人（開館日数273日）であり、令和2年度の開館日数は241日（5/26～3/31）となる見込みであることから、直近の昨年度の実績値を基に算出した57,200人を目標値とする。 算式：241日×64,817人÷273日＝57,219人⇒57,200人(百人未満切捨)			
評価分析	コロナ禍の影響で警戒度が年度末まで下がらなかったため、来館者数(121,315人/240,338人)前年度比50.5%と半減した中、貸出人数は前年度比71.1%、貸出冊数は76.9%と健闘した。			

○新規登録者数（新規）

指標の説明	県立図書館利用券の新規登録者を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	1,960	1,541	78.6%	B
目標値設定の考え方	令和元年度の新規登録人数は2,224人（開館日数273日）であり、令和2年度の開館日数は241日（5/26～3/31）となる見込みであることから、直近の昨年度の実績値を基に算出した1,960人を目標値とする。 算式：241日×2,224人÷273日＝1,963人⇒1,960人（十人未満切捨）			
評価分析	コロナ禍の影響で警戒度が年度末まで下がらなかったため、来館者数(121,315人/240,338人)が前年度比50.5%と半減した中、新規登録者は78.6%と健闘した。			

○学習支援図書貸出冊数

指標の説明	学習支援図書セットの貸出状況は、小・中・高等学校における学習活動での図書活用の目安となるため、学習支援図書貸出冊数を指標として設定す			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	5,000	6,525	130.5%	A
目標値設定の考え方	令和2年度は4・5月分の貸出がキャンセルになったので、令和元年度の貸出総冊数7,234冊から、令和元年度の4・5月貸出冊数1,983冊を引いた冊数を目標値とする。 算式：7,243冊－1,983冊＝5,260冊⇒5,000冊（千冊未満切捨）			
評価分析	小学校28校、中学校4校、高校6校、特別支援学校2校、幼稚園2園への貸出を実施した。利用校の所在地は前橋市と高崎市が多いが、沼田市や藤岡市、桐生市、邑楽郡など北毛、西毛、東毛地区の学校の利用もあった。また、図書館未設置町村である板倉町や昭和村、長野原町の学校の利用もあった。利用者アンケートの「複数冊のセットであることからクラス全員の児童が一人1冊ずつ手に取ることができてよい」「自校の資料だけでは解決できないことに役立てることができた」などの感想から、学習活動に活用されている様子を感ずることができた。			

○ビブリオバトル参加者数

指標の説明	ビブリオバトル大会の参加状況は、高校生や県民の読書活動推進の目安となるため、ビブリオバトル大会参加者数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	90	48	53.3%	C
目標値設定の考え方	令和2年度は募集定員の100%を目標値とする。募集定員は、群馬県のイベント実施ガイドラインにより、会場収容人数200人の半数以内とした。 (募集定員)・発表者：20人・観戦者：60人・ボランティア：10人 計 90人			
評価分析	例年、群馬県高等学校教育研究会図書館部会から発表者を推薦してもらっていたが、感染症の影響により地区予選等の開催が困難であったため、県内の各学校長推薦により発表者を募った。年度当初の感染症拡大状況から目標値を90人と設定したが、状況の変化に伴い募集定員の観戦者を発表者1名につき1名としたため、参加者数は48名となった。また、高校生の「運営ボランティア」を募り、受付、司会、投票用紙回収など大会運営をサポートしてもらった。縮小開催ではあったが参加者からは「自分のお勧め本を紹介できたのみならず、読書好きと交流できたことが何よりもうれしかった」「本好きの子どもたちを見ていると気持ちがいい」「運営も高校生ということに感動」などの感想があり、高校生や県民の読書活動推進に役立てることができた。			

②高度な専門的情報サービスの提供

○調査相談件数

指標の説明	調査相談機能の強化とさらなる充実を目指すため、県立図書館の重要な業務の一つであるレファレンスサービスのうち、利用相談（書架案内や所蔵調査）を除く調査相談（事柄や事実調査、文献調査などの専門的情報提供サービス）の件数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	5,000	4,838	96.8%	A
目標値設定の考え方	この指標は主に調査相談室等のカウンターで対応した調査相談件数に関する数値であり、開館日数の増減の影響を受ける。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月と5月の約2ヶ月間の休館があった事情を勘案し、過年度3年間の平均件数の約80%を目標値として設定する。 参考実績 H29：6,867件、H30：6,176件、R1：5,567件 算式：(6,867件+6,176件+5,567件)／3 × 10ヵ月／12ヵ月 ≒5,169件⇒5,000件（千件未満切捨）			
評価分析	新型コロナウイルス感染症対応として閉館していた時期も、非来館型サービスとしてメール、文書、FAXによるレファレンスは受け付けていたが、利用は限られていた。 7月からほぼ通常開館に戻り件数は回復基調にあったが、11月28日より警戒度が3に引き上げられ館内の利用が一部制限されたこと等が影響し、12月に入り再び減少傾向に転じたが、目標値はほぼ達成することができた。			

○調査相談事例・郷土人物データベースへの入力件数（新規）

指標の説明	当館独自の調査相談事例及び郷土人物に関するデータベースを充実させ、郷土関連事案を中心とした県民の調査研究に資する情報を積極的に提供する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	180	230	127.8%	A
目標値設定の考え方	新規の指標で過年度の実績等の参考値がないため、下記計算式により目標値を設定する。 算式：15件／月×12月＝180件			
評価分析	カウンター等で受け付けた質問を元に、回答や参考文献を紹介するレファレンス事例及び郷土ゆかりの人物について略歴や参考文献を紹介する郷土人物データ、計230件を入力した。 調査相談事例・郷土人物データベースは当館ホームページから検索が可能なツールであり、今回の新型コロナウイルス感染症対応による閉館にあっても県立図書館の調査相談サービスを提供できる手段の一つである。今後も、群馬県関係の事例を中心に調査に有用なデータの入力を進めていく。			

③図書館ネットワークの充実

○相互貸借冊・点数

指標の説明	相互貸借システムの利用状況は、図書館ネットワークの充実の目安となるため、相互貸借冊数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	14,000	11,908	85.1%	B
目標値設定の考え方	令和2年度は4・5月分の貸出がキャンセルになったので、令和元年度の相互貸借システム利用での貸出総冊数(14,842冊)から4・5月貸出冊数(1,231冊)を引き、これに令和元年度に相互貸借システム利用での貸出がなかった機関(37機関)への年間10冊の貸出数を足した冊数を目標値とする。 算式：(14,842冊－1,231冊)＋(37機関×10冊)＝13,981冊 ⇒14,000冊（千冊未満切上）			
評価分析	今年度は感染症の影響を受け、貸出冊数が伸びなかった。令和元年度に利用がなかった機関が利用した例もあったが、令和元年度に利用があった機関で令和2年度の利用がなかった機関もあった。今後の感染症の状況を見ながら、相互貸借システム利用について消極的な機関への利用促進に努めていきたい。			

○横断検索システムの検索件数

指標の説明	県立図書館の横断検索システムは、県内図書館の資料を一元的に検索できるシステムであり、その利用の多少が図書館利用の一つの目安となる。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	243,000	264,164	108.7%	A
目標値設定の考え方	新型コロナウイルス拡大防止に伴う休館の影響を踏まえ、4月～6月は令和2年度実績（49,032件）、7月～3月は令和元年度実績（193,670件）を基準とする。 算式：4月～6月(R2実績)49,032件＋7月～3月(R1実績)193,670件 ＝242,702件 ⇒243,000件(千件未満切上)			
評価分析	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県内図書館員を対象として例年5月に開催していた「相互貸借担当者会議」の「横断検索操作説明」は中止となったが、図書館員への周知は書面で行い、検索件数の進捗は順調であった。 ・県民の横断検索の利用促進のため、図書館HPのトップバナーで、横断検索をPRしている。			

④県内図書館等に対する支援の充実

○図書館等職員研修参加者数

指標の説明	県立図書館が開催する研修会の開催状況は、人材育成支援充実の目安となるため、特に、実務的な内容の「図書館(室)職員司書実務研修」と、学校図書館の利活用促進を内容とする「学校図書館研修会」を取上げ、二つの研修会の参加人数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	150	112	74.7%	B
目標値設定の考え方	令和2年度は募集定員の100%を目標値とする。募集定員は群馬県のイベント実施ガイドラインにより、会場収容人数200人の半数以内とした。 (募集定員) ①図書館(室)職員実務研修：2回×50人＝計100人 ②学校図書館研修会：50人 算式：①100人＋②50人＝150人			
評価分析	図書館(室)職員実務研修は9月24日と12月18日の2回開催を予定していたが、オンラインで令和3年2月の開催に変更となった。参加申込者は63名であった。学校図書館研修会は11月19日に49名の参加で開催することができた。二つの研修会の参加者の合計は112名となった。学校図書館研修会では、群馬県教育委員会指定平成30・令和元年度学校図書館充実事業指定校の実践発表を行い、参加者から「学校図書館は、学習センター・読書センター・情報センターの3つの機能を充実させ活用できるようにすることが必要だと改めて納得した」などの感想があった。他校の具体的な情報を共有することによって学校図書館の利用促進に向けた参加者の意欲につながることができた。			

○協力レファレンス件数

指標の説明	地域の情報拠点として、県内の公共図書館や学校・大学図書館で解決できないレファレンス事案について、高度な質問に対応できる専門性を備えた職員が所蔵するレファレンスツール(辞書・事典、各種データベース等)や専門的資料を活用して解決の支援を行う。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	65	72	110.8%	A
目標値設定の考え方	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、約2ヶ月休館となった図書館が多い事情を勘案し、令和元年度実績81件の約80%を目標値として設定する。 算式：81件(R1実績)×10ヵ月／12ヵ月＝67.5件⇒65件			
評価分析	新型コロナウイルス感染症対応として閉館していた時期も、県内の公共図書館や学校図書館等の機関・団体からのレファレンスは受け付けており目標値を達成できた。 今後も高度な質問に対応できる調査相談人材の育成やレファレンスツールの整備等調査相談機能の充実に努め、県内図書館をバックアップできる態勢を整えていきたい。			

○図書館未設置町村への貸出点数（新規）

指標の説明	図書館未設置町村への貸出状況は、県内公民館図書室等に対する支援充実の目安となるため、地域支援用図書の貸出冊数と、相互貸借の貸出冊数を指標として設定する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	10,000	9,541	95.4%	A
目標値設定の考え方	令和元年度の地域支援用図書の貸出冊数(9,750冊)と相互貸借システム利用での貸出冊数(408冊)の合計冊数を目標値とする。 算式：9,750冊＋408冊＝10,158冊⇒10,000冊（千冊未満切捨）			
評価分析	令和2年度の地域支援用図書の貸出冊数は9,090冊、図書館未設置町村への相互貸借貸出数は451冊であり合計9,541冊となった。年度当初は図書館未設置町村を訪問し地域の図書館の状況を確認しながら県立図書館の資料利用を促す予定だったが、感染症の影響のため実施できなかった。			

⑤群馬県に関する資料・情報の網羅的収集と保存

○郷土資料受入冊数

指標の説明	群馬県関係資料の県内最終保存館として、図書資料・視聴覚資料を問わず群馬県関連資料を網羅的に収集する。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	2,200	2,222	101.0%	A
目標値設定の考え方	郷土資料は一般の流通ルートに乗らない非商業出版物が多く、年間の出版点数を把握することは難しいため、直近3年間の収集実績冊数を参考にし、その平均値2,200(百冊未満切捨)を目標値とする。 参考実績 H29：2,432冊、H30：2,155冊、R1：2,216冊 算式：(2,432冊＋2,155冊＋2,216冊)／3≒2,267冊⇒2,200冊			
評価分析	新聞等の出版関係記事、行政資料の発行情報、出版目録、各種カタログ等に目を配って郷土資料の出版情報をつかみ、購入や寄贈依頼により収集に努めた。 新型コロナウイルス感染症の拡大により、出版業界もさまざまな影響を受けたと言われているが、一般の流通ルートに乗らない非商業出版物の多い郷土資料は、出版点数・状況に特に影響はなかったようで、目標値を達成できた。今後も県内各地に関わる資料の網羅的な収集に努めていきたい。			

○デジタルライブラリーへのアクセス件数

指標の説明	郷土資料や貴重書をデジタル化してインターネット上で公開するデジタルライブラリーにより、所蔵資料の保存と利用の促進を図る。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	14,000	17,922	128.0%	A
目標値設定の考え方	コロナウィルス拡大の影響は不透明であるが、令和2年6月のデジタルライブラリー二次利用条件の変更（緩和）によりアクセス数の増加が想定されることから、令和元年度実績をベースに目標値に設定する。			
評価分析	・前年度実績と比較して、好調なアクセス数となっている。新型コロナウイルス感染症拡大によって、非来館型サービスの利用が増加したことが要因と考えられる。			

⑥情報発信の充実等

○企画展示実施回数（新規）

指標の説明	県の施策や文化施設(文学館・文書館・美術館等)の特別展と連携した資料や文学賞受賞作家の作品等、話題性のある資料を展示し、利用の促進を図る。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	30	46	153.3%	A
目標値設定の考え方	令和元年度実績は中央図書室28回、ロビー12回、新聞雑誌室6回、子ども読書相談室12回の計58回であった。令和2年度は新型コロナウイルス感染対策によりロビー・新聞雑誌・子ども読書相談室での展示スペースが確保できないことから、中央図書室を中心に30回の展示を目標とする。 算式：昨年度実績(中央図書室)28回×9月（7月～3月）／12月＝21回 拡充分：21回×1.5倍＝31.5回 ⇒ 30回（十回未満切捨）			
評価分析	従来、企画展示を行っていた中央玄関前ロビーや新聞雑誌室入り口の展示コーナーがコロナ禍の影響で利用できなくなったため、中央図書室や子ども読書相談室の限られたスペースで短期間のミニ展示を数多く実施したため、目標値はクリアできた。 しかし、他の文化施設と連携した大規模な展示は前述のように広いスペースがとれないため、実施は限定的なものとなった。			

○ホームページ更新件数

指標の説明	県立図書館で実施する事業や活動など、ホームページのイベント情報等を通じ、積極的な情報発信を行い、利用の促進を図る。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	160	128	80.0%	B
目標値設定の考え方	新型コロナウイルス拡大防止に伴う休館の影響を踏まえ、4月～6月のホームページ更新件数は令和2年度実績（18件）、7月～3月は令和元年度実績（143件）を基準とする。 算式：4月～6月(R2実績)18件＋7月～3月(R1実績)143件 ＝161件 ⇒160件(十件未満切捨)			
評価分析	・新型コロナウイルス拡大防止のため、館内イベントの中止とオンライン開催が増加し、イベント関連（特に報告）の更新が減少したことが低調の要因と考えられる。			

○ホームページアクセス件数（新規）

指標の説明	ホームページの利活用の増進を図る。件数はページビュー数（Web ページ閲覧数）とする。			
目標値の達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	920,000	767,836	83.5%	B
目標値設定の考え方	ホームページアクセス数の指標をセッション数（訪問数）からページビュー数（Web ページ閲覧数）に変更した上で、令和元年度実績を目標値とする。なお、この指標は、OPAC(オンライン蔵書目録検索システム)のアクセス数を含まない。			
評価分析	・10月までの実績は概ね順調であったが、11月以降アクセス件数が大きく減少した。県内の新型コロナウイルス感染症拡大の影響と推測される。3月までアクセス数は戻らず、達成率は83.5%となった。			

○メディア掲載等件数

指標の説明	県立図書館で実施する資料展示等の事業やボランティア活動などについて、新聞社等に積極的な情報発信を行い、利用の促進を図る。			
目標値の 達成状況	目標値	実績／達成率		評価
	32	25	78.1%	B
目標値設定 の考え方	令和2年度の目標値は平成30年度と令和元年度の実績平均60件をベースとし、次の算式で算出する。 令和2年度はコロナ禍のため4月から7月の4ヶ月間の催しの多くが中止となったため、第一四半期分を控除し、7月から3月までの9ヶ月間を対象とする。 また、7月以降も新型コロナウイルスの感染拡大の第2波が想定されることから、事業の執行見込みを70%として算出し、32件とする。 算式：60件(H30・R1実績平均)×9ヶ月(7月～3月)／12ヶ月＝45件 45件×70%(7月から3月の事業執行見込み)＝32件			
評価分析	今年度は、コロナ禍の中で、図書館こどもまつり、ボランティア行事などが中止になり、各種行事も参加者の人数を制限するなど規模を縮小して実施したが、実施した行事については概ね新聞記事に掲載されている状況である。 ○今年度の特徴として、実績の25件に含まないが、「県有施設のあり方見直し」に関連した当館に関わる記事が14件、新型コロナに関連した当館に関わる記事が6件あった。			